

## 各グループ意見交換まとめ

### ・NII-IRP

- 機関リポジトリの収載コンテンツの可視性向上のためには、OAI-PMH を通じたメタデータ頒布のほか、メタデータやコンテンツ本体を表層 Web に晒すことにより、Google 等のクロールリングに対応することも重要。
- コンテンツ登録へのインセンティブを高めるため、ダウンロード数などを積極的に投稿者に示し、機関リポジトリの設置・運用の効果を示していくことが考えられる。
- 各機関リポジトリは OAI データプロバイダリストに参加し、海外等のサービスプロバイダからのハーベスティングを直接受けることになる。NII メタデータ・データベースは、機関リポジトリを出自としたメタデータの重複頒布を避けるため、個別入力データのみを OAI-PMH 経由で頒布するのがよいのではないかと。

### ・国大図協

- 機関リポジトリのソフトウェアの実装や、OAI-PMH 対応、コンテンツの整備は NII-IRP で重点的に行うということであるので、国大図協のプロジェクトとは役割分担を行っていきたい。
- 機関リポジトリのソフトウェアのインストールを、誰でも戸惑うことなく行うことができるようなものにするため、NII-IRP の報告書に意見を出したい。
- 国大図協のプロジェクトは、研究者への啓蒙・広報活動を積極的に行っていきたい。
- コンテンツ配信ポリシーを作成し、国大図協のプロジェクトの報告書に盛り込んでいきたい。

### ・REFORM

- 国際会議での発表文献は、Web 上散乱しており、発見が容易ではないので、これを機関リポジトリに収集してはどうか。
- 機関リポジトリのソフトウェアの開発を図書館員が行うのは、難しいのではないかと。  
NII で機関リポジトリのソフトウェアを作成する案もあったが、海外で盛んに活用されているオープンソースのソフトウェアが既にあることから、本プロジェクトではその活用に取り組んでいる。  
今後は、図書館システムのパッケージに、機関リポジトリの機能が組み込まれるであろう。
- REFORM として、NII-IRP に貢献したいと考えているが、要望があれば言ってもらいたい。  
運用・戦略面でアドバイスをもらいたい。  
Romeo プロジェクト相当の調査を実施し、日本における国内学協会でのセルフアーカイブ許容状況をつかんでいくことも重要。